

第4学年社会科学学習指導案

指導学級 宮古市立千徳小学校

4年3組 男14名女17名計31名

指導者 畠山 勇

指導場所 4年3組教室

研修テーマ 課題解決に必要な情報を見つけ活用することができる児童の育成

情報が大量にあふれる現代社会の中で、調べたいこと・知りたいことに出会った時、自分にとって本当に正しくて必要な情報は「どれで」「どこの部分か」を見つけ、活用していくことがますます重要になっていると考え、本テーマを設定した。

そこで、「水はどこから」の学習では、蛇口の数を調べさせる活動に取り組み、その数の意味を考えさせた。このように資料の表面的な数字だけでなく、その数に隠されている事柄を考えさせるような指導を大切にしてきた。

- 1 単元名 昔のくらしとまちづくり「郷土の発展につくした人びと」
(宮古市社会科副読本「わたしたちの宮古」)

2 単元について

(1) 児童について

児童は「健康なくらしとまちづくり」において、水の使い方の昔と現在を比べる活動を行った。この学習を通して、洗濯板や井戸といった昔のくらしについて興味を示す様子が見られた。

また、水の使用量をグラフから読み取ったり、浄化方法を図から説明したりするようになった。さらには、1つの資料の中からどのような傾向があるのか、また気が付くことは何かということについても意識するようになってきた。

しかし、資料から課題にかかわる事柄を取り出す際に、数種類の資料から必要な情報を読み取ることに慣れていない。資料を基に課題の答えをまとめることも難しい状況である。そこで、複数の資料から必要な情報を取り出して、考えを説明できるようにする指導が必要である。

(2) 教材について

学習指導要領第3学年及び第4学年の目標(2)では、「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展について尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。」となっている。(3)では、「地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。」となっている。

ここでは、「郷土の発展につくした人びと」として、鞭牛和尚を取り上げる。鞭牛は、18世紀中頃に難所だった閉伊街道を切りひらき、人々のくらしを向上させていった人物である。鞭牛が生まれた(1710年)頃の道は険しく、藩の年貢などを盛岡へ運ぶのも容易ではなかった。旧新里村など山あいに住む人々は狭い田畑を耕して暮らしていたので、凶作や飢饉になると多くの人々が死んでいた。村人の苦労は大変だったにちがいない。そのような様子を見てきた鞭牛は、鉾山で働いた経験を生かし、道路を次々と開削していった。このような先人の姿を学ぶことは、先人に対する尊敬と地域への関心を高めるものと考えられる。また、道路開削の苦労と工夫を調べるための資料は、文献が中心となる。今までの視覚的な資料だけでなく、こうした文字中心の資料からも必要な情報を取り出す活動は、インターネットなどのあふれる情報から何が有効で大切かを考える力にもつながり、資料活用能力を育てることに効果的である。

このことから本教材は、必要な情報を見つけ活用するとともに、地域への愛情を育てることに適している。

(3) 指導について

先人への尊敬や地域への愛情、そして資料を活用して社会的事象を考える力を育てるために、以下のように指導を進めていきたい。

まず、宮古市には鞭牛の石碑や像などゆかりのあるものがたくさんあることをVT Rで見せる。このことで、どのようなことをした人なのか興味をもたせていきたい。そして、鞭牛が生きていた頃のくらし・道づくりの進め方・道づくりの苦労や工夫・人々の生活の変化の4つの視点に分けて調べさせることで、文献から必要な情報を見つけることに慣れさせたい。その際には、「学習課題を解決するために、必要な資料はどれでどの部分かを考える活動」「資料からわかることをみんなで出し合い、話し合いを焦点化する活動」を大切することにより、資料を効果的に活用できるようにしていきたい。

3 単元の目標

- (1) さまざまな資料から、郷土の発展に尽くした人々の苦労や工夫を知ろうとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 郷土の発展に尽くした人々の努力や工夫と人々の生活の向上のつながりを考えることができる。
(社会的な思考・判断)
- (3) 郷土の発展に尽くした人々の資料から、鞭牛和尚など地域の先人の願いや工夫・努力・苦心について、調べたり、まとめたりすることができる。
(観察・資料活用の技能・表現)
- (4) 郷土の発展に尽くした人々が生きていた頃の生活の様子を理解する。
(社会的事象についての知識・理解)

4 指導計画 (10時間計画)

小単元	時間	学 習 内 容 (副) 副読本「わたしたちの宮古」で扱うページ
鞭牛の道づくり	1	鞭牛の活躍や、その頃の様子について調べる計画を立てる。(副 P 99)
	2	鞭牛が生きていた頃の人々の生活の様子について調べる。(副 P 100)
	3	鞭牛は、どのようにして道づくりを進めたのか調べる。(副 P 101)
	4 本時	道を切り開くために、どのような苦労や工夫があったのか調べる。 (副 P 102)
	5	閉伊街道ができて、人々の生活がどのように変わったのか調べる。 (副 P 103)
	6 7 8	学習のまとめをする。(副 P 104)
調べよう	9 10	郷土の発展に尽くした人々のことについて調べる。(副 P 105)

5 本時の指導 (4/10)

(1) 目標

- 鞭牛が道を切り開くための苦労や工夫について進んで調べようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 資料から道を切り開く時の苦労や工夫の様子を具体的に見つけ、まとめることができる。
(観察・資料活用の技能・表現)

(2) 本時の目標を達成するための手立て

- ①複数の資料から、どの資料が必要でどの部分を調べればよいか考えさせる。
- ②必要な資料から分かることを出し合った後、話し合いを焦点化する。

(3) 展開 (太字ゴシックは手立てにかかわる部分)

段階	学 習 活 動	予想される児童の反応	指 導 上 の 留 意 点
導 入 5 分	<p>1 前時の想起をする</p> <p>○ 鞭牛はどんな思いで道づくりをはじめたのですか。</p> <p>○ 鞭牛はどのようにして道づくりを進めましたか。</p> <p>2 課題を把握する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>道を切り開くために、どのような苦労や工夫があったのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・危険な道のために苦しむ人々を助きたい。 ・高い岩場をけずった。 ・土を盛った。 ・川の水面から約2mの高さのところに道を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・順調に工事が進んでいたのか考えさせる。
展 開 32 分	<p>3 課題解決を図る</p> <p>(1) 苦労や工夫があったのか予想する。</p> <p>○ 102ページの絵では何をしていますか。</p> <p>(2) グループで複数の資料を読む</p> <p>○ 苦労や工夫が書かれているところを抜き出しましょう。</p> <p>○ 「大平」とはどの場所でしょう。</p> <p>○ どのような手順で道づくりをしたのでしょうか。</p> <p>(3) 全体で探した資料をもとに苦労や工夫について話し合う</p> <p>○ 絵にした道づくりの手順を発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岩の上に火をたいている。 ・水をもっているところから、何かに使いそうだ。 ・道の真ん中にかたい大岩があって困っていた。 ・薪を燃やして岩を熱した。 ・岩を熱した後に水をかけて急に冷やし、ひび割れを作って砕いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・副読本の挿絵から、苦労や工夫の見通しをもたせる。 <p>手立て① 複数の資料から、どの資料が必要でどの部分を調べればよいか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から難所工事がどこで行われたか確かめる。 ・道づくりの手順を確かめた後、簡単な絵で表現させ、苦労や工夫を想像させる。 <p>手立て② 資料から分かることを出し合った後、道を切り開く苦労や工夫について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鞭牛の道づくりにかける思いについても話し合う。 ☆必要な情報から、道を切り開く時の苦労や工夫をとらえているか。
終 末 8 分	<p>4 学習のまとめをする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>かたい大岩があって村人は困っていた。鞭牛は、大岩を熱した後に水をかけて冷やし、くだいていった。鞭牛の考えはすばらしい。</p> </div> <p>5 次時の学習を知る</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「困難だったこと」「困難なことをどのように克服したか」「克服した鞭牛をどう思うか」の3点でまとめさせる。 ☆鞭牛の苦労や工夫について感想をもっているか。

(4) 具体の評価規準

観点	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する児童への支援
【関・意・態】	道を切り開くための苦労や工夫について、鞭牛の道づくりにかける思いもふくめて感想を書いている。	道を切り開くための苦労や工夫について感想を書いている。 (ノート・発表)	出された感想について、共感したところや似ている感想がないか考えさせる。
【技・表】	当時の村人たちが困っていたことをふまえ、資料を活用しながら工夫や努力について説明している。	解決のための必要な資料を見つけ、課題の答えを求めている。	解決に必要な資料を限定した後に、どの部分が必要かを考えさせる。

(5) 板書計画

<p>鞭牛の道づくり ＜あの大岩をくずせ＞</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>道を切り開くために、どのような苦労や工夫があったのだろうか。</p> </div> <p>鞭牛の思い 「危険な道のために苦しむ人々を助きたい」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>副読本の挿絵</p> </div> <p>(予想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩の上に火をたいている。 ・水をもっているところから、何かに使いそうだ。 <p>苦労・大岩をくずす。 工夫・まきを燃やして岩を熱する。 ・岩を熱した後に水をかけて急に冷やし、ひび割れを作ってくだいた。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大平」の場所を示す地図 ・「大平」の難所工事の資料 </div> <p>手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大岩の上にまき・しばを山のよう積み上げて火をつける。 2 大岩は火につつまれて燃える。 3 鞭牛の号令でいっせいに水をかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>手順を簡単な絵に表したもの</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>かたい大岩があって村人は困っていた。鞭牛は、大岩を熱した後に水をかけて冷やし、くだいていった。鞭牛の考えはすばらしい。</p> </div>
--	---